

同窓会・北海道支部の昨今

酒 井 誠一郎
(第6回生)

サッカーが取り持つ縁で、北海道内の清水東出身者が集まり始め、支部を名乗るようになって早、15年になる。これだけの年月が経てば、組織もすっかり固まり、年次計画をきっちりつくって、スムーズに行し、清水東ここにあり、と多少誇れる存在になっていなければいけないのだが、残念ながら、この2、3年の動きは極めて鈍い。ひとえに会長である私の怠慢に原因があるのだが、何といてもこの怠け者の尻を叩き続け、支部の運営全般に鋭い目を光らせていた木内義一氏(現・関東同窓会副会長)が札幌を去り、浦和に移ってしまったことが痛い。支部創設すら、木内氏がいなければ容易ではなかったと思う。勿論、木内氏のあとは佐々木洋氏(新13回生。札幌学院大教授)や、松田従三氏(新15回生。北大農学部教授)などが懸命に会の盛り立てを図っているが、彼らは脂の乗り切った現役の学者である。学会や海外出張、学生指導などに忙殺され、仲々同窓会にまでは手が回らないのは当然だ。年齢ゆえの会長は、すっかりお委せの体たらくで、タクトは振れまい。申し訳ない限りである。

学者と言えば、支部にはこの二人の他にも佐藤正之氏(新6回)、見城忠男氏(新11回)、初田健氏(新12回)、鈴木敏正氏(新18回)、鍋田憲助氏(同)、山梨光訓氏(新20回)、西方聡氏(新22回)、北村清彦氏(新26回)、田畑伸一郎氏(新28回)などが、北大をはじめ道内の各大学でも活躍中、との名簿がある。東高出身者の頭脳水準を示す例証であろう。毎年5月、北大などへ新たに入って来た諸君を歓迎し、在校生やOBたちが集まってサッポロビールを飲み、ジンスカンを食べる会を続けて来たが、このところ中断している。せめてこれを復活し、もう少し元気のよい支部への再起を、と念願している。

関東・北海道支部結成の思い出

木 内 義 一
(第8回生)

私は、関東・北海道支部結成当初から同窓会に縁があり、今日まで15年間同窓会活動の運営に参画している。関東支部の結成は、昭和62年12月、本部同窓会(稲名会長、西ヶ谷校長等)の働きかけて、旧1期から新8期までの各期幹事十数名が集い、支部設立総会を開催した。新8期は、山本孝氏(現会長代行)と私が出席し、私は、同氏と共に、第1回総会(同63年2月)の会場(都ホテル東京)の設営や支部会則の起草、会の運営企画等を担当し、初代事務局長に就任した。総会には、関東周辺・清水から約300名の参加を得て、盛大に開催した。初代会長には、塚本博氏(旧1期・故人)が選出された。総会は、鏡開き式の他、祝辞に、竹内宏(経済評論家・現会長)、江國滋(エッセイスト・故人)、和田春樹(東大教授)の名士各氏が顔を揃え、祝電の宝井馬琴、杉山隆一、山下大輔各氏を含め、OBの各界での活躍振りや層の厚さに感服したことは、記憶に新しい。第3回総会の竹内宏経済講演会や宝井馬琴講談寄席、和田春樹時局講演会等運営に試行錯誤を重ね、第6回総会(担当・新8回生)以後、現在の運営方式に改めたが、継続は力なりで、昨年15周年を迎えたことは喜ばしい限りである。

更に加筆すると、私が、札幌在住中の平成元年8月、母校サッカー部が北海道同協会の招きで来札の折、酒井誠一郎氏(現会長)とのOB各氏に働きかけて、選手歓迎激励会を開催したのが現在の北海道支部結成の始まりで、やがて15回目の総会を数える昨今、全く昔日の感である。この他、毎春、北大新入生の歓迎会も継続しており、これらはユニークな支部活動として特筆されるところ。

最後に、私自身関東・北海道支部の創設期から同窓会運営に参画できたことは幸せであり、今日の隆盛の基礎造りに中核的役割を果たせたことを自負すると共に、今後も、この同窓会活動を通じて、母校の発展の一翼を担って行きたいと思う。